



令和6年3月発行

# 学校だより

北海道柔道整復専門学校

教頭 西巻 英男

春暖の候 卒業生のみなさん、元気ですか。ならびに本校関係各位、諸先生方におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より本校に対し格別なるご理解とご教導を賜り、心から感謝申し上げる次第です。

今年元日早々、石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6の能登半島地震が発生し、多くの人々の尊い命が失われるというショッキングな災害に見舞われました。発災後は、寒さが厳しさを増す中、ライフラインもままならない状況で、被災者の関連死や健康状態の悪化を含め、二次的被害等も出ています。我々は記憶に新しい胆振東部地震で道内各地での「ブラックアウト」を経験しましたが、積雪寒冷地での冬季災害を考えた時、さらに深刻さは自明で、命の危機に直結することを容易に想像できます。日頃から停電時でも使える暖房器や身体を保温するための装備を含め、防災や減災を念頭に個々の備えを考えていきたいものです。また、震災翌日に起きた羽田空港での衝突事故でも尊い命が失われました。被災者の皆さんへ心からのお見舞いと震災や、事故で亡くなられた方に対し、ご冥福をお祈り申し上げます。本校3学期の始業式では全員で黙祷を行い、皆で哀悼の意を捧げました。

さて、この3年間を振り返ると新型コロナウイルス感染症の脅威、拡大によって私たちの生活、経済、就労、社会活動や学修生活など制限が余儀なくされ、日本の社会、教育活動も様々な障壁が生じ大きく変化しました。本校でもこの間、教職員一同、良質な学校教育、学修生活の指導に尽力するべく対応して参りました。12月現在、学校事業においては少子化や進路の多様化、運営手法等々の影響もあり、新年度の入学者も減少傾向となっていて、種々山積する諸問題を抱えています。我々は問題を一つ一つ丁寧に解決し、柔道整復師を夢見て志す学生たちが明日の医療を担う人間として自覚と自信を持ち、自分の力を思う存分発揮して社会で勇往邁進することを期待すると同時に、心から応援しております。卒業生の皆さんも後輩たちへの温かいご支援とご協力をお願いいたします。

本校の卒後教育講演会（以下講演会）も、令和2年2月第34回を最後に感染症の拡大で2020年以降、開催を見送りして来ました。皆さんも承知のように本講演会の趣旨、目的は文字どおり卒業後の医療情勢や、柔整業界の現況、それを取り巻く環境の理解、本学講師陣や外部講師による最新の医学知見等を学ぶ卒後キャリアパスへの寄与であります。しかし、本講演会は例年2月の冬期環境下の開催で「時期的に参加できない」との声や、各人の各種講演会の配信講演、受講形態の変化も相まって、全道各地からの参加人数も年々減少傾向でした。そのため、令和6年4月開催の第35回講演会の開催については、温暖な時期の開催や開催方法の変更、見直し等を含め、総合的に判断して同窓会に相談しました。筒井同窓会長をはじめ、五十嵐相談役、同窓会役員のご高配を頂き、本年度は同窓会総会・特別講演会との共催となりました。講演会は同窓会総会終了後に2席を予定し、第1席目は、本校教務次長で、みんな大好きな野崎享先生、第2席は、北海道大学病院 小児科医 佐々木大輔先生

(故 佐々木辰雄先生のご子息)のご講演をいただき、その後に懇親会を予定しています。令和6年1月現在もコロナ禍の終焉については完全な見通しは立っていませんが、多くの卒業生が集い、皆さんにとって実りある講演会となることを懇願しています。卒業生の皆さんは、既に第一線で活躍していることと思いますが、我々医療人は、私たちが信頼してくれる患者さんのために、そして、自己自身のためにも日進月歩する医療技術や、様々な知見など有益な情報を吸収しながら、本校で身に着けた生涯教育の精神を忘れず、一層精進していただきたいと心より祈念しています。

最後になりますが、同窓会長、執行役員の尽力に対し、感謝と敬意を表すとともに、卒業生の皆さんの地域医療での貢献、各方面の社会活動において益々の寄与、発展と第35回本講演会、同窓会総会および特別講演会が盛会裏となることを祈念しまして挨拶といたします。

---

「力必達」

教務次長 野崎 享

本校の柔道場に飾ってある額にある言葉。講道館柔道十段の小谷澄之先生の書「力れば必ず達す何事も、命のかぎり励めわが友」を見て考える。「擇道竭力」たかどうけつりよく、正しき道を選んで力を尽くせ。柔道整復師を志し、北海道柔道整復専門学校に入学し道を選んだ(擇道)。ならばその道で力を尽くさねばならない(竭力)。

「尽己埃成」じんきしせい、己を尽くして成るをまつ。入学して3年間、精一杯勉強し柔道整復師国家試験に挑み、合格を期待する。「順道制勝」じゅんどうせいしょう、道にそって勝ちを制す。ここでの道とは道徳・生き方であり、道徳に沿った方法で成功を収める。学校教育は人間教育の場であり、医療教育のプロフェッショナルリズムを学ぶ。「精力善用」せいりよくぜんよう。自己の能力を患者貢献に注ぐ。「自他共栄」じたきょうえい。自己のみならず社会全体で発展・繁栄する。世界平和にまでつながってしまう。嘉納治五郎は教育者であり、沢山の言葉を残している。講道館を創設しただけでなく、数々の業績を残している。学校教育に体育を取り入れ日本体育協会を設立したのも嘉納治五郎だ。嘉納治五郎が残した柔道精神を心に刻んで柔道整復師の道を行く。

---

3年生担任 名古屋 佳奈

3年生の皆さん、卒業おめでとうございます。

コロナもありましたが、入学した時と比べて今の自分はどうでしょうか。

皆と過ごした3年間は、お互い様ですが色々ありました！

さて、これから社会にでる皆に最後のお小言と最後の課題です(笑)

自分で決める。どんな状況にあっても、どんな自分であるかは自分で決める。

笑顔の多い人、ありがとうを素直に言える人、愚痴まみれの人、相手を誹謗中傷する人、不平不満の塊の人がいる。苦しい逆境にあっても、笑顔の人がいる。感謝を忘れない人がいる。自分の正義が正しいとは限らない。

性格じゃない。その人の意思なんだ。自分で決める。自分の人生だ。

志をもって！

人生100年時代と言われていています。皆は残り80年くらいですね。

その残りの人生、君たちはどう生きる？

これが最後の課題です！これからがスタートです！頑張ってくださいね！

「3年間を終えて」

3年生 三関 祥太

私はこの北海道柔道整復専門学校で多くのことを学んできました。

1年生の時は、コロナ禍での入学で不安な気持ちや慣れないリモート授業などがありましたがクラスメイトと協力し合い、柔道整復師としての基礎を学ぶことができました。

2年生では、主に臨床実習やロールプレイなど、机上では学ぶことのできない患者との接し方や施術録の記録・保管などを学びました。自分たちの将来に必ずや活かすことのできる有意義な学習だったと感じています。

3年生になるとコロナも落ち着き、初めての体育大会が開催され、クラスメイトや他学年との交流を深めることができました。

そして国家試験の合格に向けて3年生一丸となって勉強に取り組むことができました。

あっという間の3年間でしたが、両親やクラスメイト、先生方のおかげで毎日充実した学校生活を送り、そして無事にこの3年間を乗り越えることができました。

本当にありがとうございました。

